



SUCRA (埼玉県地域共同リポジトリ) について

HARPを参照しつつ、我が身を振り返る


鈴木正紀

(文教大学越谷図書館)

suzuki@lib.bunkyo.ac.jp

本日の話題

- SUCRAについて
- SUCRAと参加機関
- HARPとSUCRAを比べてみる
- 文教大学としてのとりくみ
- まとめ



SUCRAについて

SUCRAの概要

- もともとは埼玉大学の機関リポジトリ(IR)
 - 現在もその側面を持っている
“Saitama **University** Cyber Repository of Academic Resources”

SUCRAの概要

- 現在はそれに加え、「埼玉県地域共同リポジトリ」としての顔を持つ。

“Saitama **United** Cyber Repository of Academic Resources”

- 埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (SALA) と埼玉大学の共同事業として運用 (少しずつ実体化)
 - 各参加機関の学術的生産物のアーカイブ及び発信基地
- 埼玉県に資する情報を提供し、埼玉県をアピールするポータルに (予定)

SALAについて

- 埼玉県大学・短期大学図書館協議 (Saitama Academic Library Association) [1988年設立]
<http://www.sala.gr.jp/>
- 現在は、県内の大学・短期大学・研究機関資料室45機関が加盟 (“埼玉ネイティブ”と“東京ブランチ”)
- 相互協力の推進、研修会の開催、会報の発行、**共同リポジトリの構築**等の活動を展開
- 運営は幹事会中心 (14機関で構成)

SUCRAトップページ

SUCRA

Saitama University 埼玉大学 SUNY@ BUNYO 城西大学 JOZEI UNIVERSITY 城西大学

SUCRA検索

全て
検索 詳細検索

インデックスツリー

open all close all

Public

- Public
- 埼玉大学
- 文教大学
- 教育学部(10)
- 人間科学部(59)
- 文学部(41)
- 情報学部(13)
- 国際学部
- 女子短期大学部(19)
- 研究所
- その他(4)
- 城西大学
- ジャンル別
- 主題別
- バインダー(61)

学術情報発信システム SUCRA

SUCRA(さくら: Saitama United Cyber Repository of Academic Resources)は、埼玉県内の大学等に在籍する研究者の学術雑誌掲載論文、紀要論文、科学研究費補助金成果報告書、学位論文、研究発表プレゼン資料などを登録し、広く世界に発信しています。SUCRAは埼玉大学の機関リポジトリとしての運用を続けて参りましたが、平成20年11月から埼玉県地域共同リポジトリとしての運用を開始し、埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)の加盟機関を中心に、埼玉県内の学術成果を幅広く登録し、発信していくこととなりました。関係機関に在籍する皆様は、著作物をSUCRAを通じて発信することができます(連絡先: 埼玉大学SUCRA担当窓口 E-Mail: sucra@mail.saitama-u.ac.jp)。詳しくは「成果物の登録方法」または「SUCRAインプレット(PDF)」をご覧ください。

最新ニュース

- SUCRA登録文献へのリンクについて (2009-7-7)
- 「社会科学論集」第126号、第127号を登録しました。(2009-7-5)
- 「経済科学論究」第6号(2009.4)を登録しました。(2009-7-2)
- 「埼玉大学地域共同研究センター紀要」Vol.1(2000)~Vol.5(2004)を登録しました。(2009-6-27)
- 「埼玉大学創立60周年記念事業ニュースレター」を掲載しています。(2009-6-16)
- 埼玉県地域共同リポジトリ運用指針(2009-5-25)
- 埼玉大学創立60周年記念事業連続市民講座「埼玉学のすめー 埼玉の過去・現在・未来を知る」の講演資料を掲載しています。(2009-5-12)
- 埼玉大学研究者総覧と相互リンクしました。(2009-4-15)
- 「埼玉大学紀要、教育学部」Vol.58, No.1を掲載しました。(2009-3-30)
- 平成20年度の埼玉大学文化科学研究科修士課程学位論文要旨を掲載しました。(2009-3-28)

Article **Binder**

関連論文 **バインダー**

メインメニュー

- ホーム
- ニュース

SUCRAについて

- SUCRAの概要
- SUCRA運用指針
- 成果物の登録方法

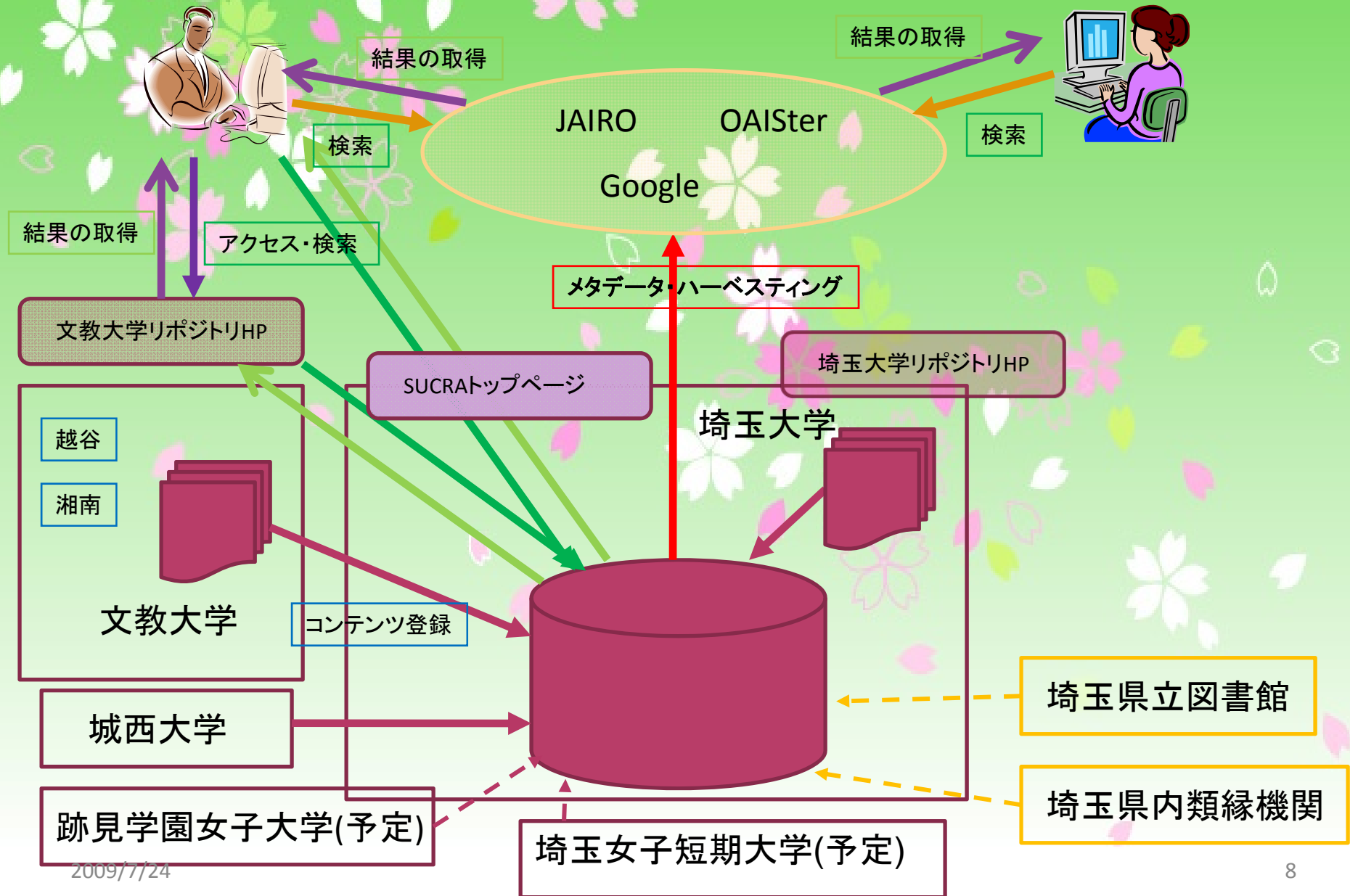
リンク


- ・埼玉大学
- ・文教大学
- ・城西大学
- ・埼玉大学図書館
- ・埼玉大学研究者総覧
- ・JAIRO(機関リポジトリ横断検索)
- ・日本の機関リポジトリ一覧
- ・海外の機関リポジトリ一覧

SUCRAログイン

ユーザ名
パスワード
ログイン

埼玉県地域共同リポジトリ概念図





SUCRAと参加機関

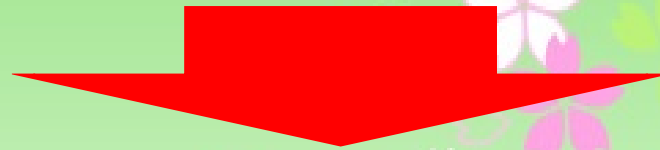
なぜ共同リポジトリか (文教大学の事情)

- [法人]大学からの情報発信機能の強化を！(理事長の方針)
 - 大学の認知度の向上を目指して。
- [図書館]機関リポジトリをめぐる日本・世界の潮流 → 本学でも立ち上げたい！
 - 学部紀要の電子的公開は10年ほどの蓄積があるが、学術的生産物の電子的公開方法としての限界も感じていた。
 - 公開用サーバに置いて、図書館HPからリンクを張るだけ。
 - 学内の各機関(図書館、研究所等)がそれぞれの裁量で公開を行っているため、統一的な発信ができていない。

なぜ共同リポジトリか (文教大学の事情)

- 図書館を大学の情報発信の拠点にできれば・・・
 - 大学の中での図書館の「位置取り」

しかし・・・



- 単独でIRを立ち上げるには・・・
 - 資金がない
 - 人的資源が足りない
 - ノウハウがない(特にシステム管理)
 - コンテンツはそこそこあるのだが・・・
 - 環境さえあれば・・・(><)

なぜ共同リポジトリか (文教大学の事情)

そんな矢先、埼玉大学から・・・

「共同リポジトリやり
ませんか？」

2007年度第3回SALA幹事会
[2008/1/10]

平成20-21年度CSI委託事業に共同リポジトリを
盛り込んで応募したい。参加を！

つまり・・・

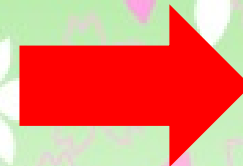
- 埼玉大学

- 地域の中核大学としての役割を実体化

- 文教大学学園（法人）

- 情報発信による知名度向上

- （活動の社会への還元）



Win-Win

- 図書館

- 大学内でのステイタスの向上・確立

- 大学の情報発信の基地としての活動

- （学術情報のオープンアクセス運動）

共同リポジトリとしての運用開始までの経過

1. (2008/1/10) SALA幹事会で埼玉大学より提案
2. (2008/4) CSI事業領域1に応募(埼玉大学 連携機関として文教大学)
 - あと数機関可能性があったが、間に合わず。
3. (2008/6/10) 2008年度SALA総会で提起
 - SALAと埼玉大学の共同事業として承認
4. (2008/9/29) SALA幹事会においてShaRe/HARPメンバーとの情報交換会を実施
5. (2008/11/21) 文教大学がコンテンツを登録
6. (2009/1/27) 城西大学がコンテンツを登録

参加までの経過（文教大学）

- (2008/1/10) 埼玉大学からの提案を受けて
1. (2008/2/28) 図書館運営委員会で、図書館の2008年度事業の一つとしてリポジトリ事業を提案、承認
 2. (2008/3/3) 埼玉大学図書館との打ち合わせ
 3. (2008/3/21) 合同学長室会議に審議事項として提出、承認
 4. (2008/4/9) 大学審議会に審議事項として提出、承認
 - 大学の事業とすることが正式に決定された
 5. (2008/6/5) 湘南図書館との打ち合わせ
※それまでも打合せは断続的に実施していた

「図書館の事業」ではなく、「大学の事業」として位置づけることを重視した。

これから参加する機関の事情

- 跡見学園女子大学

- 参加の目的: 大学内の学術情報を広く公開するため
- ここに至るまでの学内での検討: 図書館運営委員会において、リポジトリの必要性が議論され、参加を決定した。今後、学内の教育・研究支援委員会との連携を行う
- 登録予定のコンテンツ: 百人一首コレクションのデジタル画像の掲載、学内学術研究論文等

これから参加する機関の事情

- 埼玉女子短期大学

- 参加の目的: SALA加盟館として、SALAの事業に参加する
- ここに至るまでの学内での検討: 2009年度に入り教授会で諮り、6月に教員全員に文書で同意を得るとともに、掲載を希望する成果物についてのアンケートをとった
- 登録予定のコンテンツ: まず紀要の登録をすすめ、その後アンケートの内容について検討して行く予定



SUCRAとHARPを比べてみる

SUCRAとHARPを比べる(概要)

	SUCRA	HARP
きっかけ	中心となる埼玉大学が地域の大学図書館協議会(SALA)に呼びかける形でスタート(2008.1-)	広島大学から広島県大学図書館協議会有志に実験を持ちかけた(2006.10-) 2007.7から県大図協として組織的な取り組みを開始
名称	Saitama United Cyber Repository of Academic Resources	Hiroshima Associated Repository Portal
参加機関数	3機関(+2機関参加予定)	12機関(+1)
サーバ	埼玉大学で既稼働のものを利用	サーバはHARP固有のものを立ち上げた
ソフトウェア	XooNlps	Dspace
稼働	2008年11月21日	2008年4月
登録件数	3、199件	2、906件
費用負担	参加機関に費用負担はない	参加機関に分担金を課している

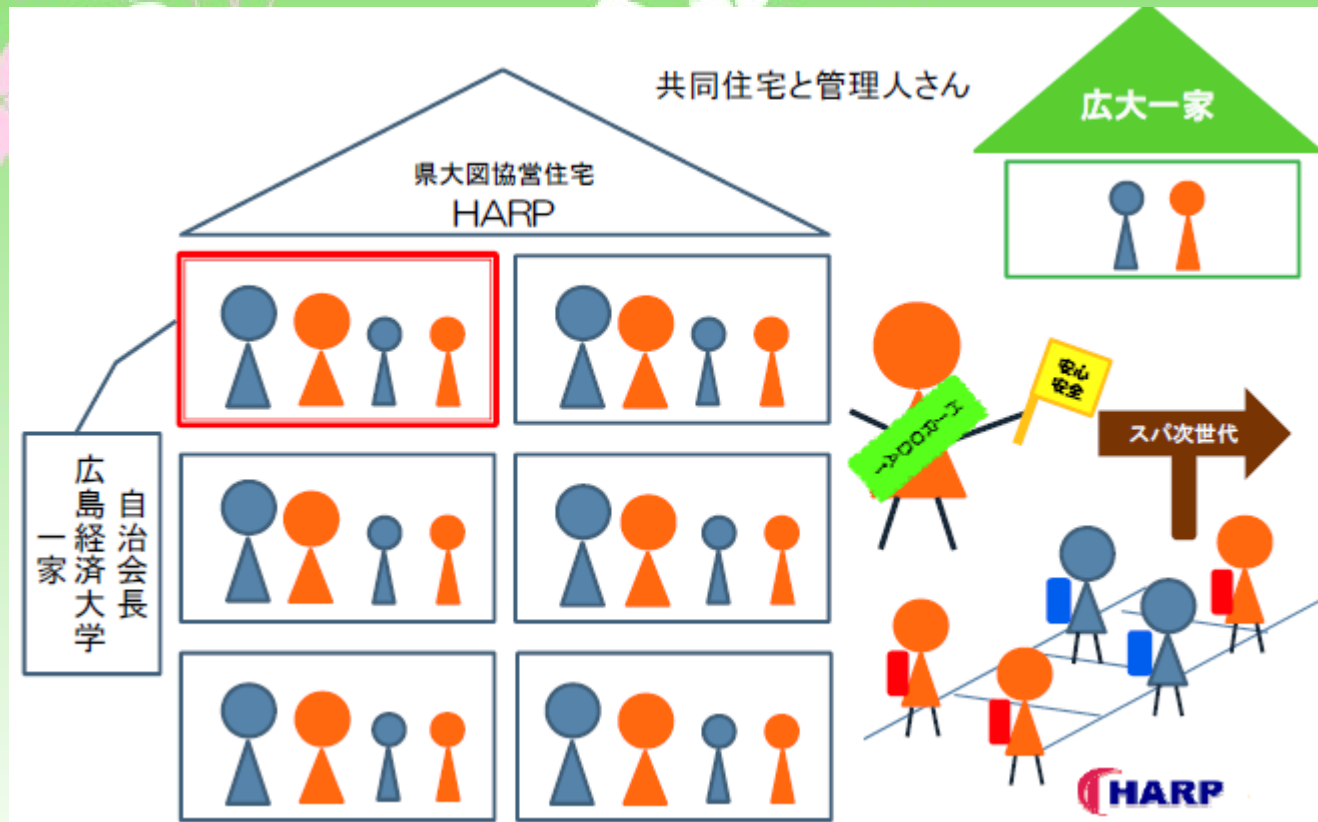
SUCRAとHARPを比べる(運営など)

	SUCRA	HARP
個性の出し方	機関ごとのカバーページ構想 baseURLは埼玉大のもの	参加機関ごとのスタイルシート適用 参加機関を絞り込んだ検索 PDFカバーページに参加機関名を追加 BaseURLは機関ごと
運営上の工夫		勉強会、メーリングリスト、Googleグループ
県協議会の役割	年次事業計画に位置付けている (研修会開催、プロモーションなど)	「共同リポジトリ委員会」(常設組織)を設置し、そのもとで管理運営を行っている
国立大学の役割	埼玉大学はシステム管理も行い、コンテンツも登録する	広島大学は別にリポジトリを持っており、HARPにはコンテンツを登録しない(システム・メンテナンス及び事務局として動く)

SUCRAとHARPを比べる(その他)

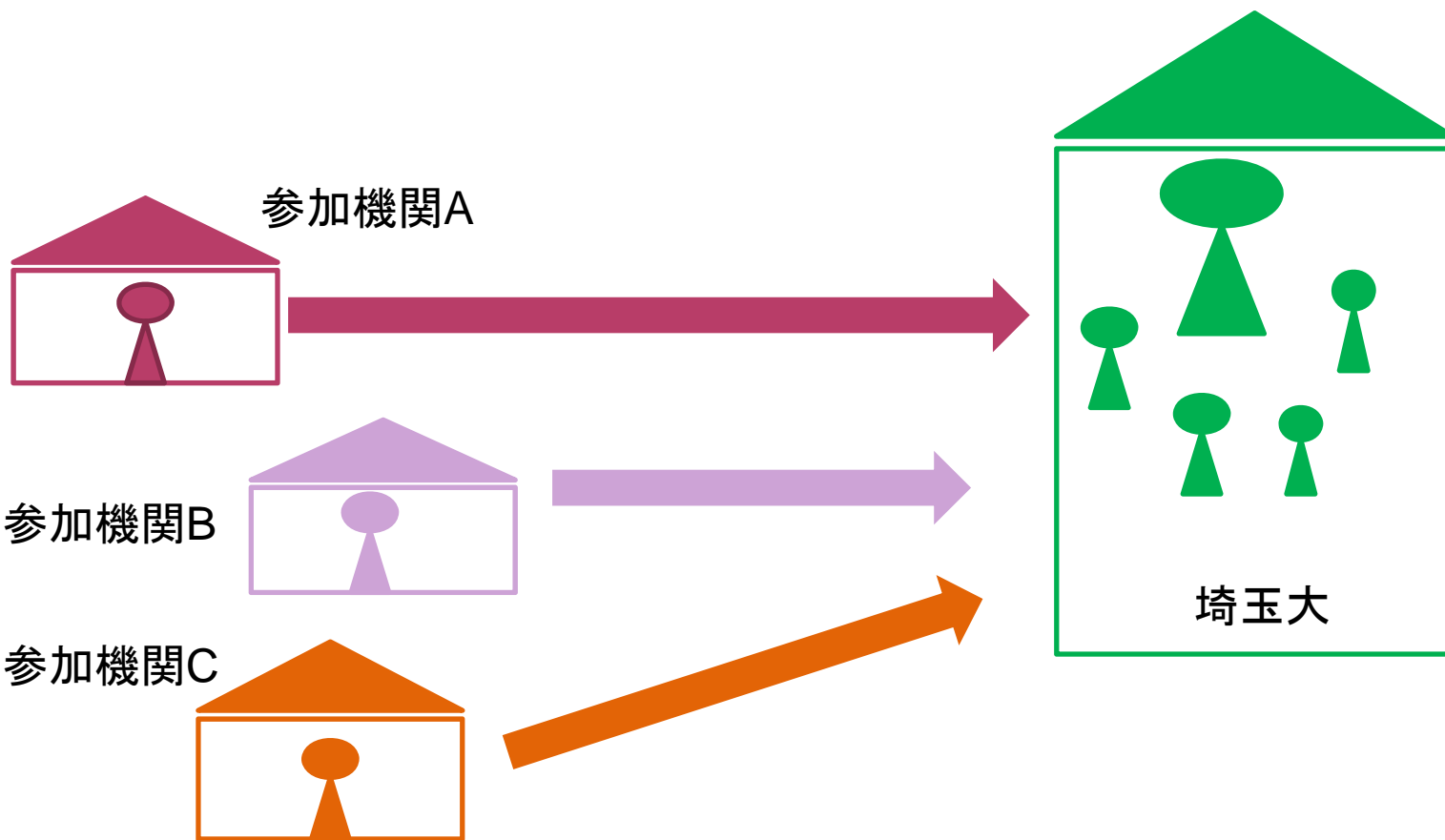
	SUCRA	HARP
管理人	埼玉大学	広島大学
自治会長	いない	広島経済大学
たとえば	戸建店子型？	集合住宅型(県大協営住宅)
特徴(私見)	今のところ、参加機関の独自性・自助努力という性格が強い	共同体的連帯感を大切にしながら参加機関の個性を出そうとしている

集合住宅型(HARP)



©HARP 申請真弓氏(広島市立大学)
(平成20年度CSI報告交流会資料より)

戸建店子型？



機関ごとの登録件数

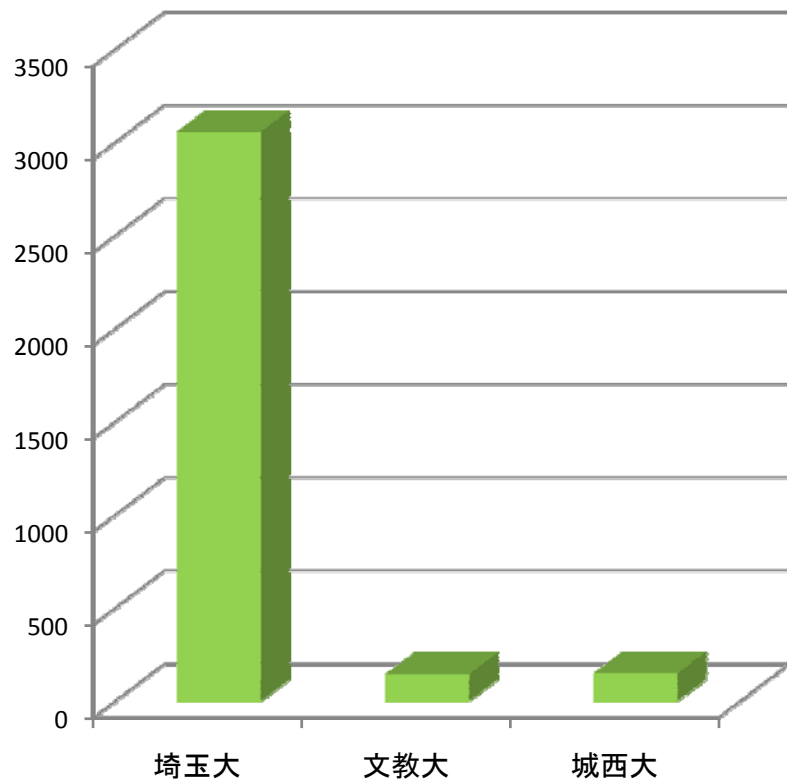
機関名	登録件数
埼玉大学	3、059
文教大学	146
城西大学	151

2009年7月17日現在

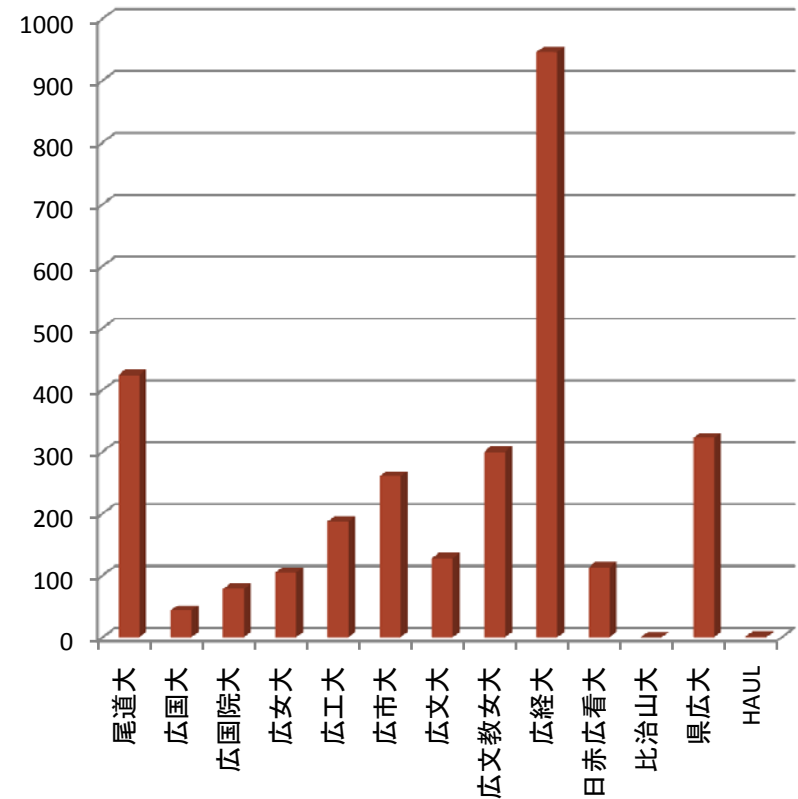
機関名	登録件数
尾道大学	424
広島国際大学	43
広島国際学院大学	78
広島女学院大学	104
広島工業大学	187
広島市立大学	260
広島文化学園大学	128
広島文教女子大学	300
広島経済大学	946
日赤広島看護大学	113
比治山大学	0
県立広島大学	322
HAUL	1

機関ごとの登録件数

登録件数(SUCRA)



登録件数(HARP)



2009年7月17日現在

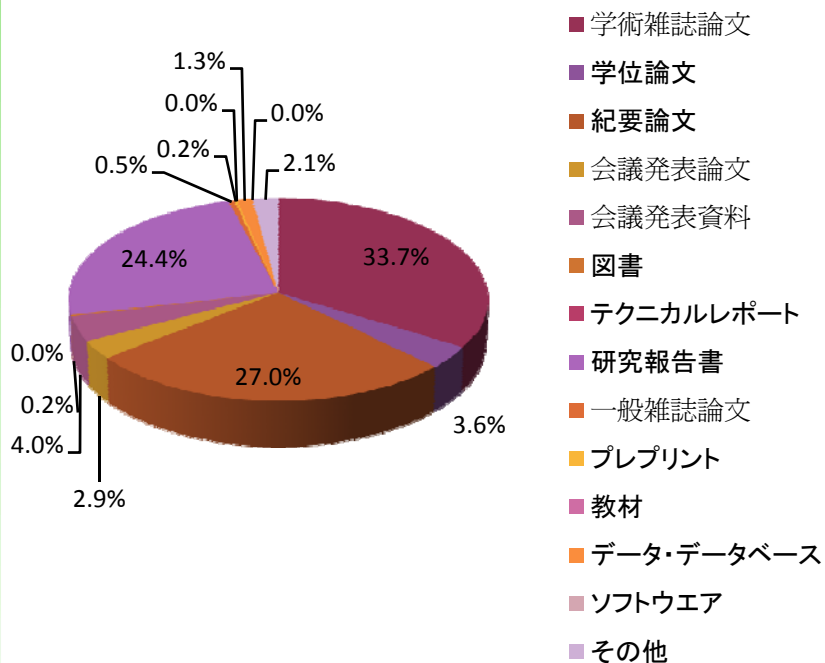
資源タイプ別コンテンツ内訳

	SUCRA	HARP		SUCRA	HARP
学術雑誌論文	33.7%	4.9%	研究報告書	24.4%	1.3%
学位論文	3.6%	0.5%	一般雑誌論文	0.5%	0.1%
紀要論文	27.0%	83.0%	プレプリント	0.2%	0.0%
会議発表論文	2.9%	2.7%	教材	0.0%	0.0%
会議発表資料	4.0%	0.2%	データ・データベース	1.3%	0.0%
図書	0.2%	5.3%	ソフトウェア	0.0%	0.0%
テクニカルレポート	0.0%	0.2%	その他	2.1%	1.9%

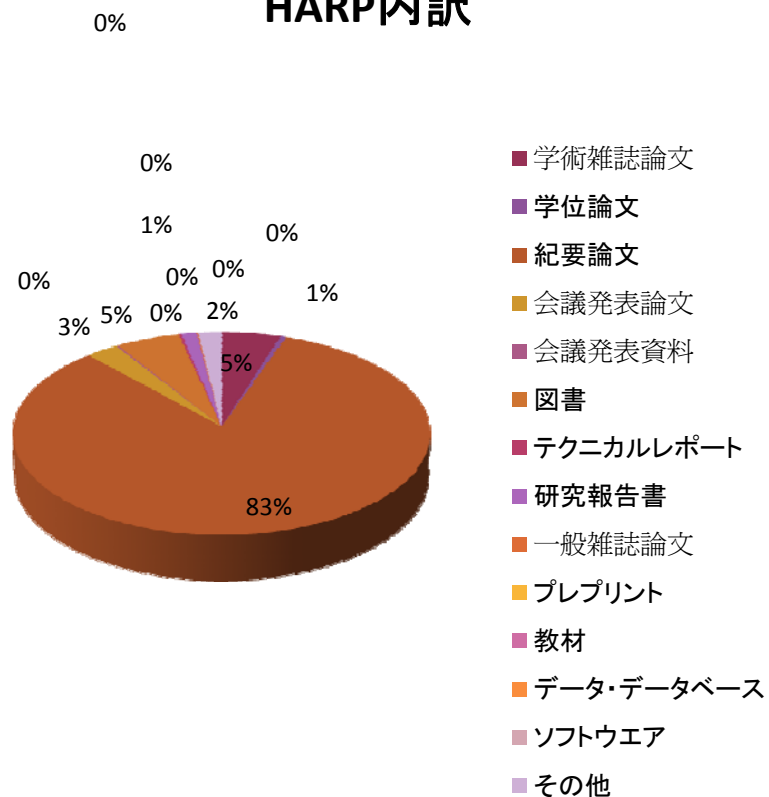
IRDB(2009/7/21)より


資源タイプ別コンテンツ内訳

SUCRA内訳



HARP内訳





文教大学としてのとりくみ

当面の見通し

- すでに電子的公開をしているものを順次SUCRAに移行
 - 学部紀要(越谷3タイトル、湘南3タイトル)
 - 約500本(CSI事業申請書類には400本と記載)
 - リポジトリの話を聞きつけた学内研究所の所長から「うちの紀要もやってくれないか。許諾はもうとってあるんだ。」との依頼(意外! うれしかった!)
「ただし、印刷体しかないんだ」 → 手元にあるスキャナで手作業。
 - やっぱニーズはあった!
- ゲリラ的にコンテンツを集める → 個別にアタック
- 図書館員の書いたもの → これまでのもの、今日のこのプレゼン資料も

SUCRA参加機関として(現状と今後)

- 現在の登録コンテンツ数:140本ほど:2年間で400本を目標としているが・・・(><)
 - 学部紀要が中心 → 対象・本数の拡大(これが当面する最大の課題)
- 課題(その他重要なこと)
 - 学内での認知度の向上(登録対象・数の拡大、広報、教員へのフィードバック)
 - 学内の運用体制(教員+図書館の担当者が参加する組織)の確立
 - 現在は、実行部隊(=図書館)が動いているのみ

SUCRA参加機関として(現状と今後)

- 業務体制の整備

- 越谷図書館については現在一人(兼務)

- 湘南図書館は集団実施体制を志向している

- 事業を継続するための**持続可能な業務体制**の確立が必要
 - 日常業務に広く薄く組み込む(**業務の「増加」ではなく「組み換え」**を)
 - 多くのスタッフになんらかの形で手掛けさせる(バックヤード面、サービス面)ことで、リポジトリ活動をスタッフの意識に刷り込む(これが継続のための基礎となるのではないか)


SUCRA参加機関として(現状と今後)

- 共同リポジトリとしての今後

- 教員からは・・・「文教大学の顔があまり前面に出てないね」
- 共同で行いつつ、各参加機関の顔がよく見えるようにすることの必要
 - そうしないと、大学構成員からは十分な評価は得られないかもしれない
 - 参加機関ごとのHPをつくるという話はあるが・・・

SUCRA参加機関として(現状と今後)

- 共同リポジトリとしての今後(文教大学としての立ち位置)
 - 埼玉に大学の基本を置いており、SALA代表幹事館でもある。そうしたところから、共同リポジトリの発展に積極的に関与していくことが基本スタンス
 - 一方、学内の評価を注視していくことも必要
 - フィードバックと評価(どれだけ使われているか)の重要性
 - 将来的な独立(単独での機関リポジトリ構築)はありうるか・・・??? ⇒ 現時点ではわからない(環境的に離脱しにくくなってきている)



まとめ

HARPについて考えてみる

- “コミュニティ”があることの強さ
 - 日常的な情報交換（メーリングリスト、勉強会、懇親会）
 - 顔が見え、苦楽をともにしている、という感覚
 - [参考]CSI委託事業報告交流会の盛り上がり（→「リポジトリ・コミュニティ」）
 - 管理人と自治会長
 - リーダーであり調整役であり、メンターでもある
 - 支えあい、ともに成長する、というモデル
- そこにかかるコスト／**受けるメリット**

資料・文献

- 村田輝「機関リポジトリから地域リポジトリへ：県立図書館のリポジトリ形成事業参画のために」(2008.9)
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=P0000112>
⇒SUCRAの今後の展開(研究者業績DB、シラバスとの連携など)を詳細に紹介
- 鈴木正紀「DRF/ShaRe-Hiroshimaワークショップに参加して」『大学の図書館』28(2), pp.20-22(2009.2)
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=BKK0000114>
⇒共同リポジトリ、そしてShaReについて



ご静聴ありがとうございました。